

天文にゆうす

2011年11月号

全国で
皆既月食

12月
10日
深夜

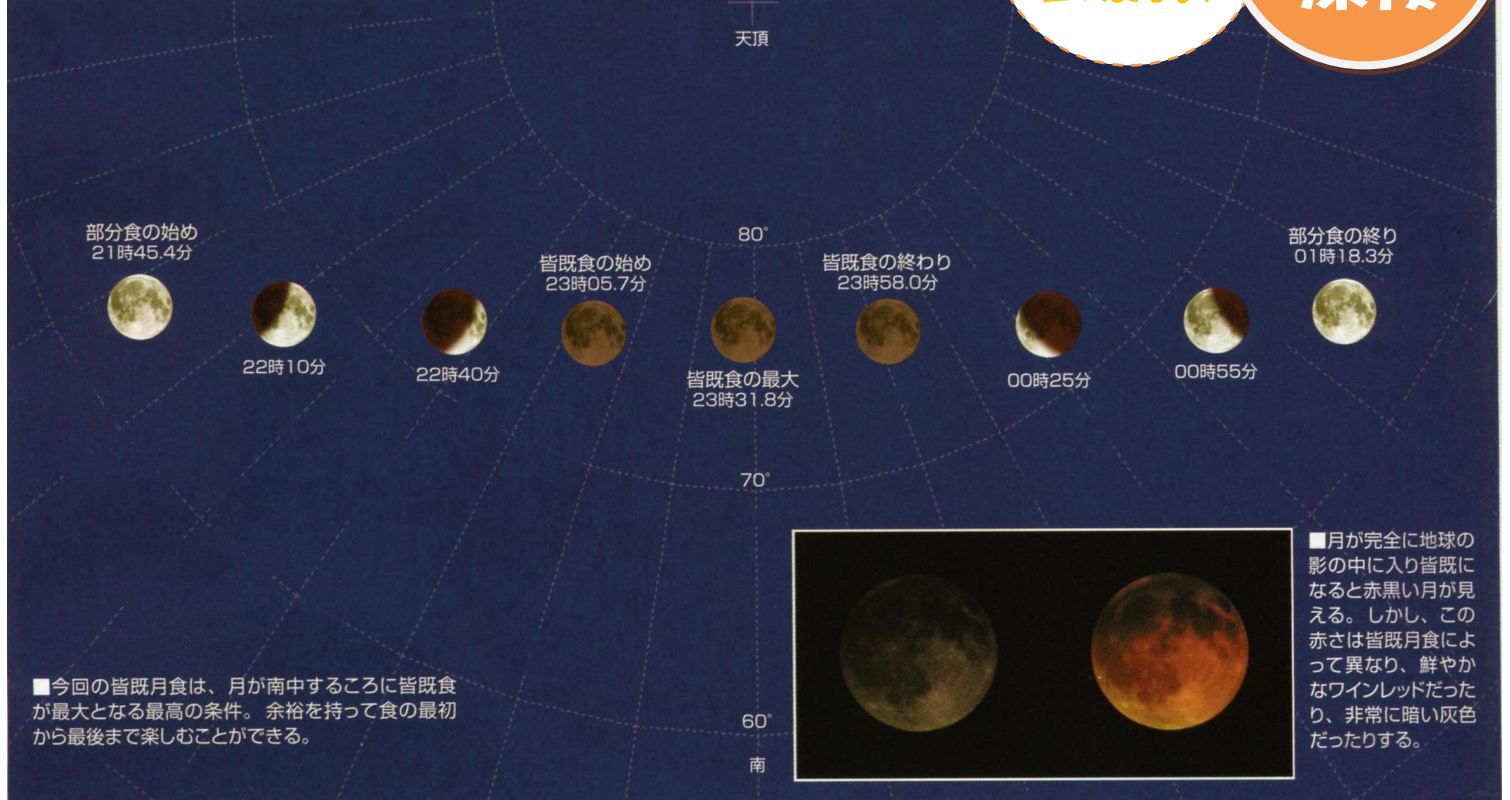
てんちょうちかく せきどうしょく かわるまんげつ
 天頂近くで赤銅色に変わる満月

早いもので、気が付けばもう12月。2011年を締めくくるにふさわしい今年最大級の天文ショー「皆既月食」が12月10日にやってくる。月食といえば、昨年から半年ごとに起こっているのだが、条件が今ひとつよくないうえ、天候にも見放されているような気がする。ところが今回は、条件は最高、太平洋側では天候も晴れが期待できそうな冬の初め。しかも土曜の夜。というわけで、この皆既月食、大いに期待したい所である。月食とは、太陽に照らされた地球の後ろ側に伸びている影に月が入る現象だ。月食は、太陽、地球、月が一直線に並び、つまり満月のときにしかおこらない。皆既月食では、月が地球の影に入るとつれてゆっくり欠けていき、月が完全に本影の中に入ってしまうと、太陽の光を反射して光っている月の姿は見えなくなるはずだが、実際は赤黒く光る月がぼんやりと見える。これは、太陽の光が地球の大気を通過する時に屈折や散乱を起こし、波長の長い赤い光だけが大気を通り抜けて、月をうっすら照らすためだ。皆既月食の魅力は、この赤い月にあることは言うまでもない。

全国で
皆既月食

12月
10日
深夜

■2011年12月10日 皆既月食 東京でのようす



天文にゆうす

2011年11月号

ふたご座
流星群が
極大

12月
14日
深夜

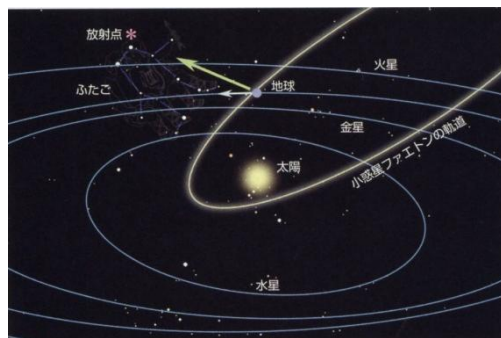
てんちょうちかく せきどうしよく かわるまんげつ

天頂近くで赤銅色に変わる満月

1月のしぶんぎ座流星群、8月のペルセウス座流星群とともに三大流星群の一つひとつとして知られるふたご座流星群が、12月中旬旬に活動する。大出現をしたしし座流星群のような派手さはないが、毎年コンスタントに1時間あたり20個から30個流れるのが特徴だ。おまけにふたご座は冬の星座で、 α 星 β 星のすぐそばにある放射点がほぼ天頂を通過するために、一晩中観望・観測できる。日本の太平洋側では空気が乾燥して透明度が良くなるので、暗い流星まで見えるというメリットまである。一般に、流星群のもととなる塵は彗星がばらまいたものだ。ふたご群の母天体は、近年までわからなかったが、1983年赤外観測衛星アイラスによって発見された小惑星「ファエトン」の軌道が、ふたご群の軌道とよく一致していることから、ファエトンが母天体であると考えられている。つまり、小惑星ファエトンは、かつては彗星だったというわけだ。さて、流星群は、月明りのない満天の星空でウォッチングするのが最高だが、今年は残念ながらことに好条件とはいえない。なぜなら、極大日の14日から15日にかけては、ふたご座の東にあるかに座に月齢19の月があり、夜空を照らして暗い流星をかき消してしまうからだ。

ふたご座
流星群が
極大

12月
14日
深夜



■ふたご座流星群の明るい流星とオリオン座。

